

# 知の市場

## — 理念と実践 —

(2013年度実績と2015年度計画)

### 第12回知の市場協議会

2014年12月5日

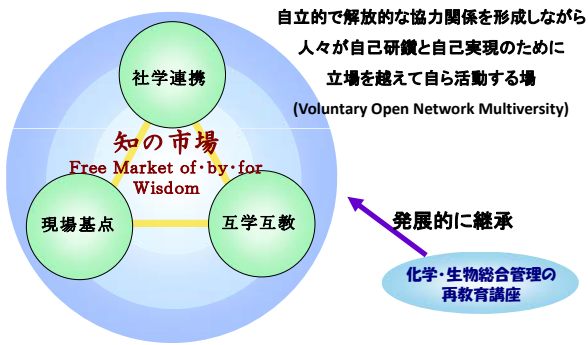
知の市場会長  
増田優

於：お茶の水女子大学

# I. 理念と運営

## 知の市場

— 化学生物総合管理の再教育講座の発展的継承 —



## 知の市場の展開

- 第0期：黎明期（～2003年度）
- 第Ⅰ期：形成期（2004年度～2008年度）
- 第Ⅱ期：展開期（2009年度～2012年度）
- 第Ⅲ期：基盤完成期（2013年度～2015年度）  
自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築
- 第Ⅳ期：自立発展期（2016年度～ ）  
完全にボランティア活動で運営する教育活動

## 知の市場の展開

- 第0期：黎明期（～2003年度）
- 1) 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指す活動を本格化
  - 2) 「互学互教」、「社会学連携」、「知の市場」などの概念を創造
  - 3) 理念を共有する有志を糾合して連携機関の原型を形成
- 第Ⅰ期：形成期（2004年度～2008年度）
- 1) 5年計画で「化学・生物総合管理の再教育講座」を開始
  - 2) 「現場基点」の概念を提起し、「互学互教」、「社会学連携」の概念に追加し、「知の市場」の理念を完成
  - 3) 開講機関の概念を導入して運営体制を強化
- 第Ⅱ期：展開期（2009年度～2012年度）
- 1) 自主的かつ自発的な教育活動として「知の市場」の名で新展開
  - 2) 開講科目の分野を拡大しながら全国への展開を促進
  - 3) 自立的にして自律的に活動する基盤の構築を本格化
- 第Ⅲ期：基盤完成期（2013年度～2015年度）
- 1) 社会を構成する多彩な人々が自主的、主体的に参画する活動の基盤を確立
  - 2) 「知の市場」がさらに自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

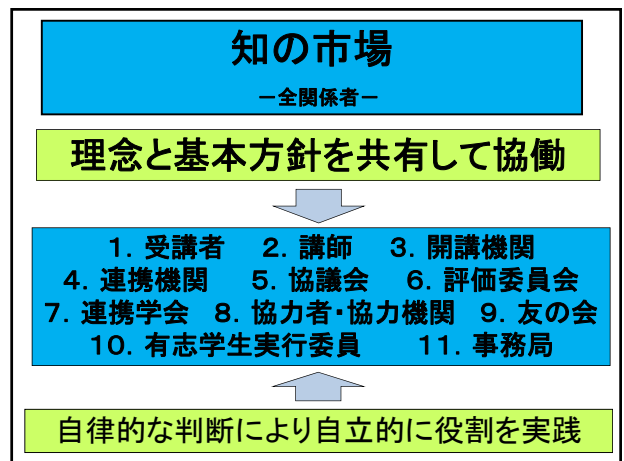
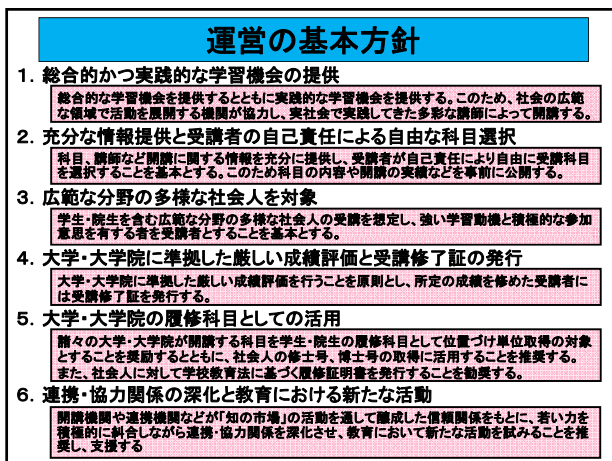
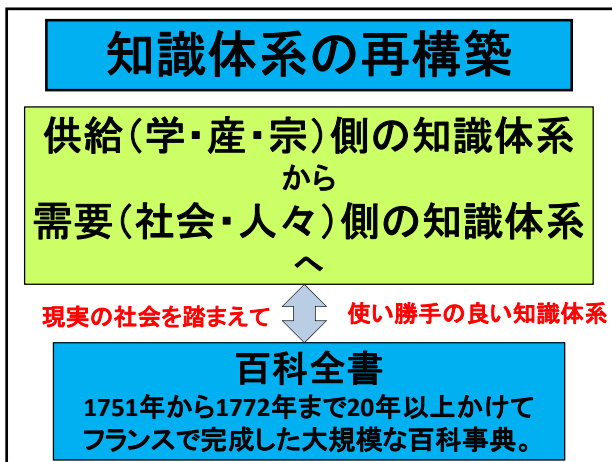
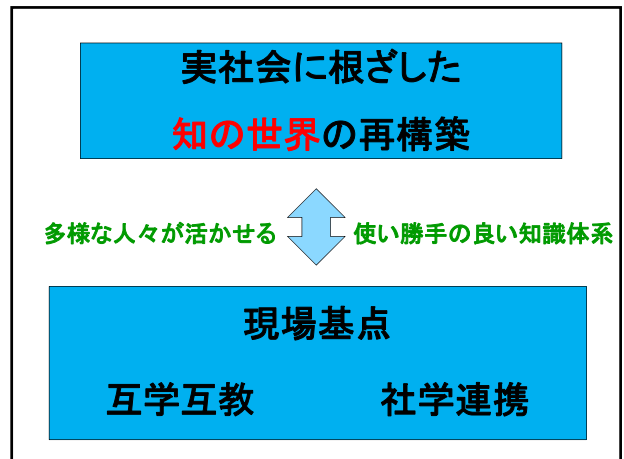
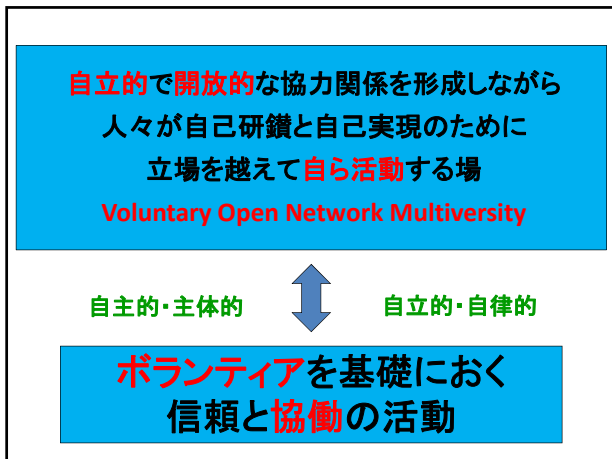
## 知の市場

### Free Market of Wisdom

知識の切り売りを排し、  
対面教育を重視

自由な交流を尊重し  
知の伝播と普遍化を重視

知恵を持ち寄り  
互いの知恵を活かし合う場



## 知の市場の構成

### 共催講座:

「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関が主催する。

### 関連講座:

「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつ諸般の状況を踏まえて個々の主催者が自らの主体性と責任のもと柔軟かつ弾力的に運営する。

再教育講座や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動。

**多様な事情に応じ得る弾力性の確保**

## 参画者の連携強化の方策

1. 知の市場の理念・基本方針の公開
2. 諸規定の充実と公開
3. 運営体制の簡素化・効率化と協働関係の強化
  - 1) マニュアルや受講修了証などの諸様式の標準化
  - 2) 「知の市場」のロゴマークの統一
  - 3) 共通受講システムの導入
  - 4) 参画機関のHPの整備と相互リンク
4. 学生・院生の若い力と社会人有志の経験を積極的に活用

**理念を共有しつつ各機関の主体性の尊重  
規範の統一と手段の標準化による連携強化**

## 規定による協働関係の強化

### 知の市場—理念と運営—

#### 応募及び受講に関する規定

応募にあたっての留意点に関する細則

#### 応募方法に関する規定

#### 成績評価及び受講修了証などの発行に関する規定

#### 奨励賞の授与に関する規定

#### 連絡方法に関する規定

受講者、講師等への連絡方法に関する細則

#### 受講者及び講師のアンケートに関する規定

#### 知の市場友の会規約

**認識の共有化のため規範の明確化と公開**

## 要領による運営体制の簡素化・効率化

### 業務及び年間予定に関する要領

### 開講機関と開催地の表記及び科目の分類と表示に関する要領

### ホームページの開設及び共通受講システムの導入に関する要領

### 広報に関する要領

### ID及びパスワードの設定並びに管理に関する要領

### 講義資料の作成及び知的財産権の扱いに関する要領

講義の準備と進め方に関する細目

### 資料などの保管及び電子的方式でつくられる資料の名称付けに関する要領

### 受講修了証の作成及び発行の方法及び手順に関する要領

### 年次大会の開催に関する要領

### 知の市場奨励賞の授与の決定手順及び選考基準に関する要領

**活動の合理化のため手段や様式の標準化と共有**

## 教育の基本方針

### 1. 総合的な学習機会の提供

**大学院水準のしっかりとした  
自己研鑽の機会の提供**

社会においてそれぞれの立場で役割を果たす人材の育成に資するため、現代の社会と世界の動向を理解するために必要な広範な領域を学ぶ機会を提供

### 2. 実践的な学習機会の提供

専門機関・研究機関、産業界、NPO・NGO、大学との連携により、実務経験を豊富に有する者が講師として参画し、実社会に根ざした学ぶ機会を提供

### 3. 十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択

受講者の的確な科目選択に資するため、科目を分野別、水準別に分類して明示し、講義内容や講師などの情報、講座の計画と実績に関する情報など詳細な情報を提供したうえで、受講者自身が自らの必要に応じて自らの判断と責任で科目を選択

### 4. 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

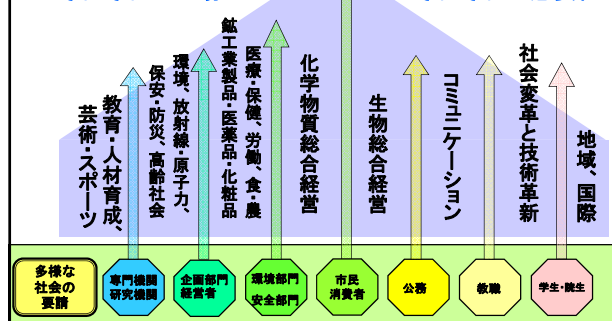
応募動機の確認から始まり、講義毎に出席を確認し15回小レポートを提出。最終レポートを提出。大学・大学院に準拠した基準に従い、出席状況と最終レポートを評価して所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

## 総合的な学習機会の提供

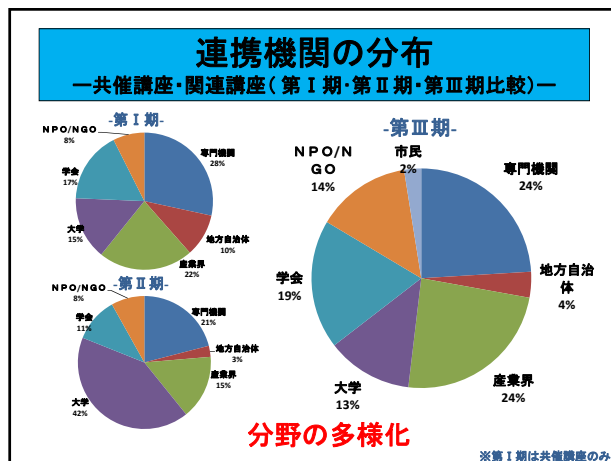
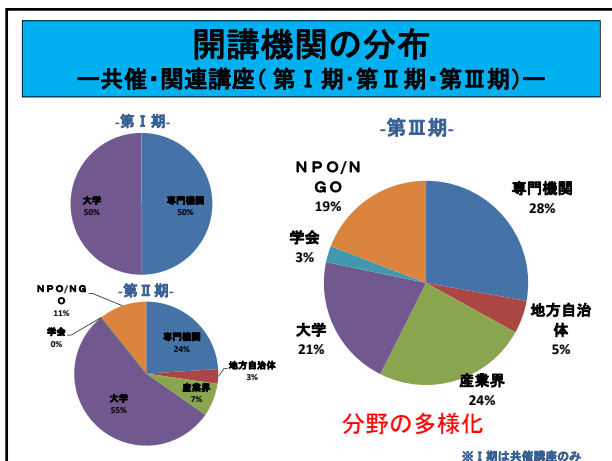
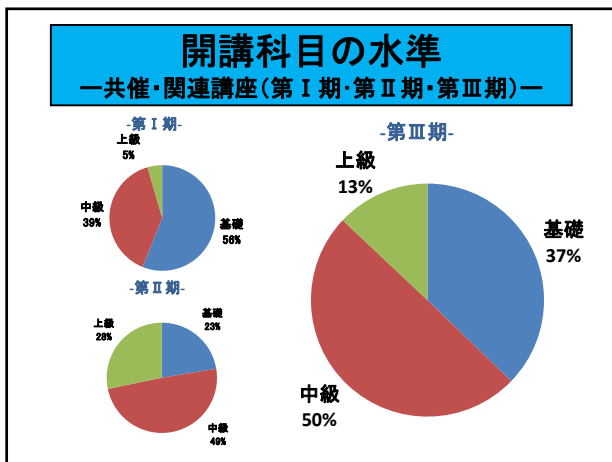
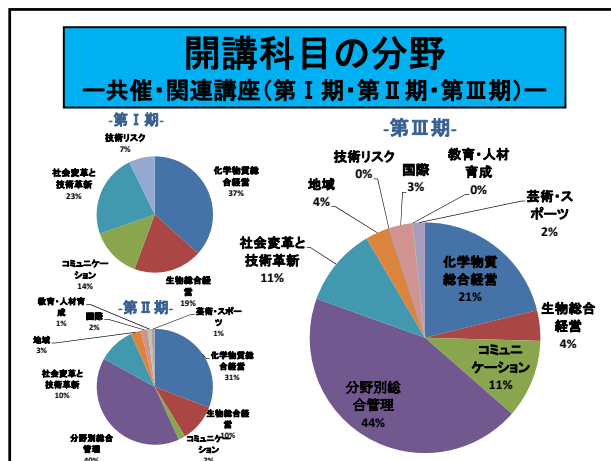
—多様な社会人の幅広い要請に応える場—

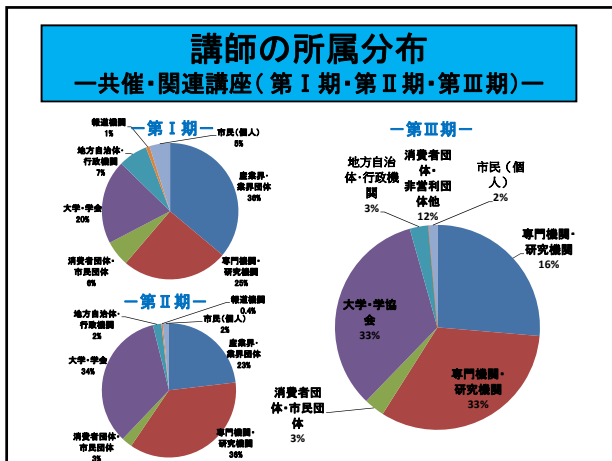
それぞれの立場

それぞれの必要性



開講分野の科目分類			
大分類	中分類	小分類	
共催講座	1.化学物質総合経営	4 分野別総合管理	1) 医療・保健
	2.生物総合経営		2) 労働
	3.コミュニケーション		3) 食・農
	4.分野別総合管理		4) 鉱工業製品・医薬品
	5.社会変革と技術革新		5) 環境
	6.地域(2011年度新設)		6) 放射線・原子力
	7.国際(2012年度新設)		7) 保安・防災
	8.教育・人材育成(同上)	5 社会変革と技術革新	1) 技術革新
	9.芸術・スポーツ(同上)		2) 物質材料・化学技術
関連講座	3) 資源・エネルギー	3) 金融・三次産業ほか	
教養編	4) 基礎・認定・標準・試験	4) 知的財産・特許	
専門編	5) 法制	5) 歴史	
研修編	6) 歴史		
大学・大学院編			





### 十分な情報提供と 受講者の自己責任による自由な科目選択

応募者の科目選択に資するための十分な情報提供  
科目の分野別・水準別分類  
講義内容や講師の詳細な情報を記した各科目のシラバス  
開講機関や知の市場全体についての講座の計画と実績

(1) 知の市場をはじめ、開講機関・連携機関などのホームページ <http://www.chinoichiba.org/>  
科目内容、科目の詳細、講師の詳細、講義の計画・実績、募集要項、応募申込書

### ホームページの充実

(2) メールによる案内  
現在及び過去の受講者や講師で構成する「知の市場友の会」へのメール配信  
開講機関・連携機関によるメール配信  
協力機関によるメール配信

(3) パンフレット、ポスター  
知の市場事務局による作成  
開講機関・連携機関による作成と配布

(4) 口コミ  
個人間の口コミ、上司や所属組織・教育部門からの指示・推奨、その他多様伝達など

(5) 報道  
新聞、雑誌の記事掲載など

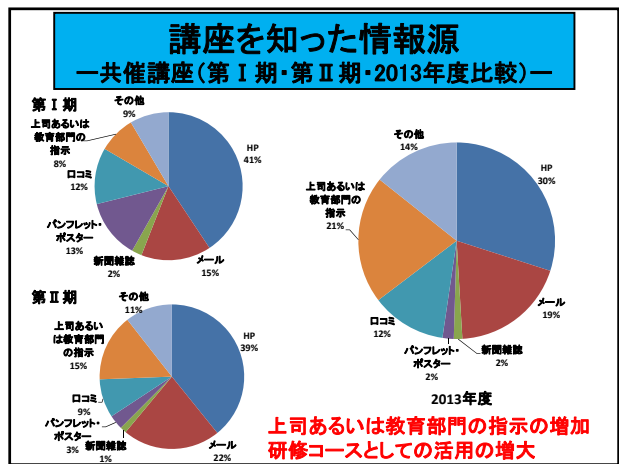
**多様な媒体を活用した  
徹底的な情報開示**

### 詳細な情報提供 納得した上での受講

#### 科目の詳細:シラバス(例)

科目名	科目の概要・目的・目標	科目の水準	科目の名称	講義の概要・目的・目標	講師名・所属機関名	講義日時
1. 消費者行動論	消費者行動の理論と実践について学ぶ。消費者の意思決定プロセスを理解し、マーケティング戦略に活かす。	初級	消費者行動論	消費者行動の理論と実践について学ぶ。消費者の意思決定プロセスを理解し、マーケティング戦略に活かす。	山田 太郎	11月10日 18:00-20:00
2. 消費者心理学	消費者の心理的プロセスを学ぶ。認知、感情、態度の形成と変化を理解し、消費者行動を予測する。	初級	消費者心理学	消費者の心理的プロセスを学ぶ。認知、感情、態度の形成と変化を理解し、消費者行動を予測する。	山田 太郎	11月17日 18:00-20:00
3. 消費者法	消費者保護の法的枠組みを学ぶ。消費者契約法、消費者被害救済法を理解し、消費者権利を擁護する。	初級	消費者法	消費者保護の法的枠組みを学ぶ。消費者契約法、消費者被害救済法を理解し、消費者権利を擁護する。	山田 太郎	11月24日 18:00-20:00

\*) 詳細は、知の市場HP (<http://www.chinoichiba.org/>) をご覧下さい。



### 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

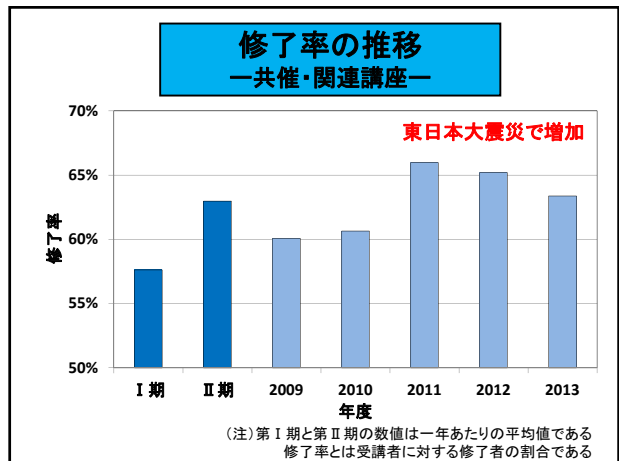
(1)-1 毎回の授業毎に出席状況を厳格に管理  
(1)-2 毎回の授業毎に理解度確認のため小レポート提出  
(1)-3 科目終了時に、最終レポートを提出

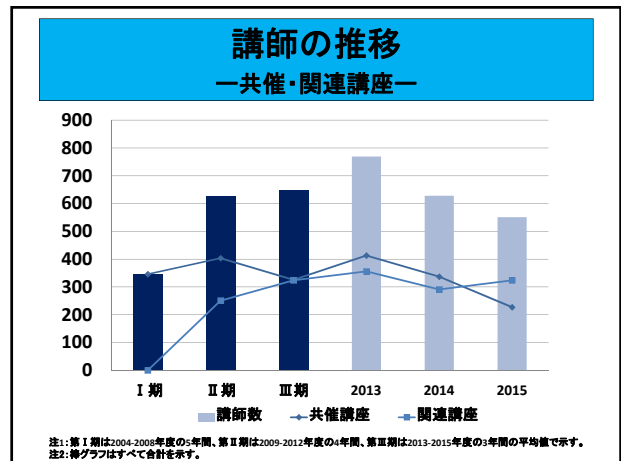
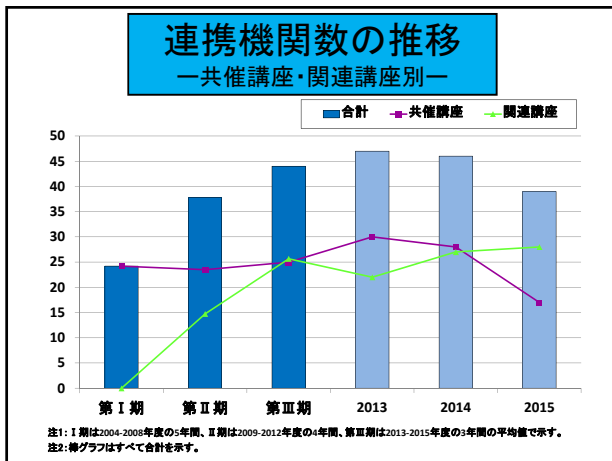
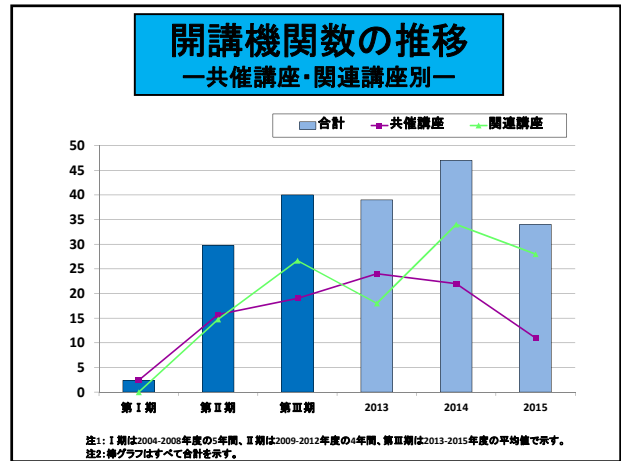
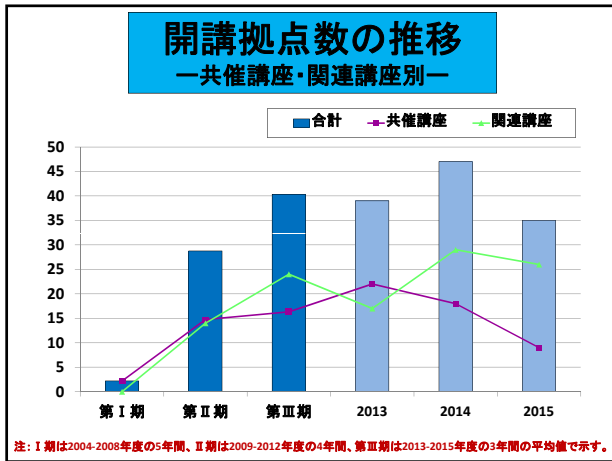
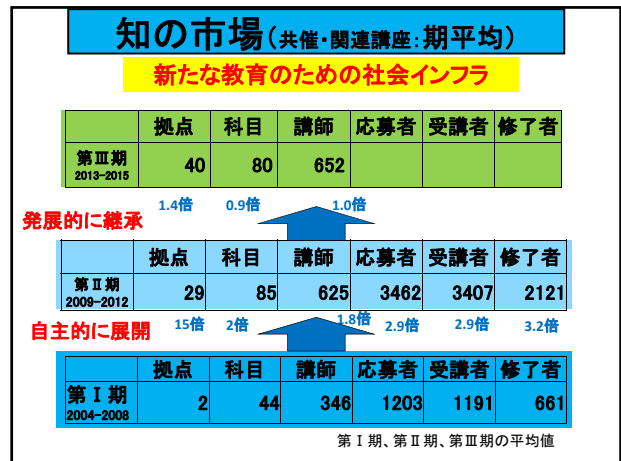
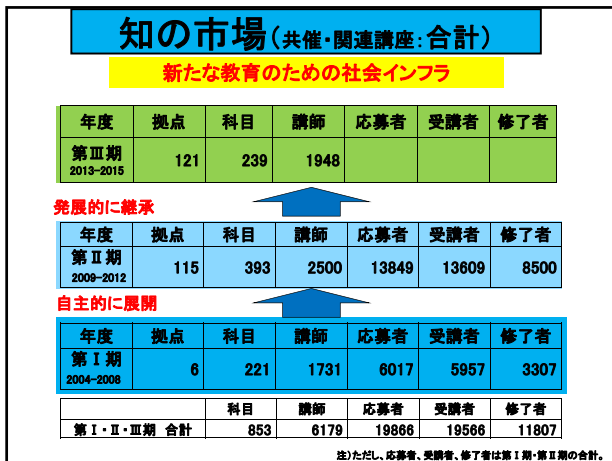
(2) 受講者の成績評価は、大学の学部・大学院の採点評価基準に準拠して評価

- 出席50点満点、レポート50点満点の合計で採点
- 出席点は15回の出席で満点とし、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に応じて減点し、出席回数7回以下の場合は履修放棄とみなす。
- レポート点は講義内容の理解度1、2、3自らの考えや主張、論理性や特筆すべき点ごとに個別に評価し、加算する。

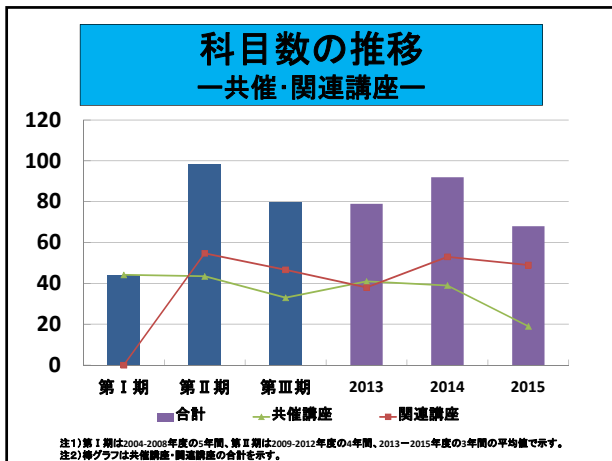
(3) 所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

A(80~100点)、B(70~79点)、C(60~69点)を合格とし、  
Aのうち特に優秀な者をSと判定。 **大学院水準のしっかりとした教育**





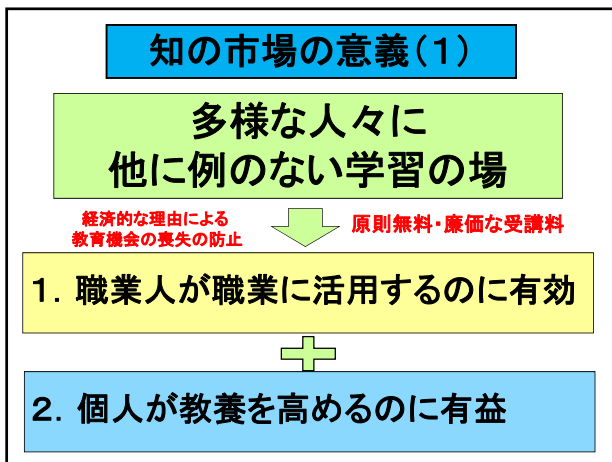




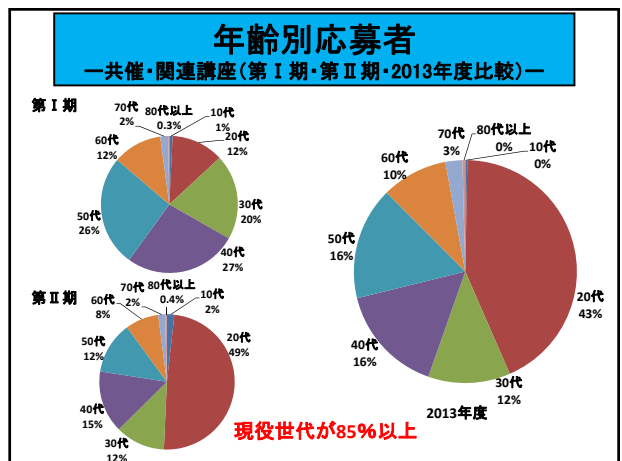
### 開講状況の推移 —第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期平均— (開講機関・連携機関・友の会・協力機関)

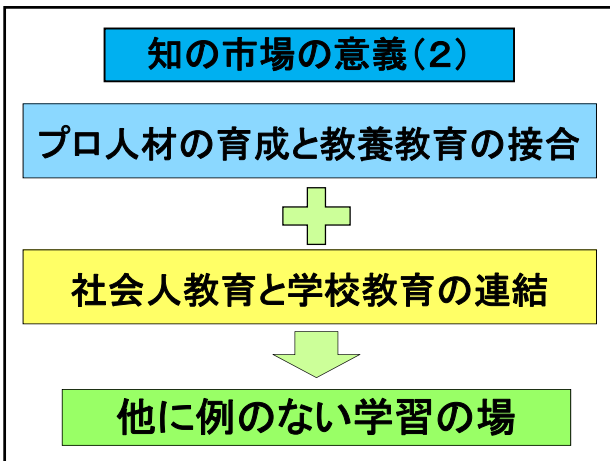
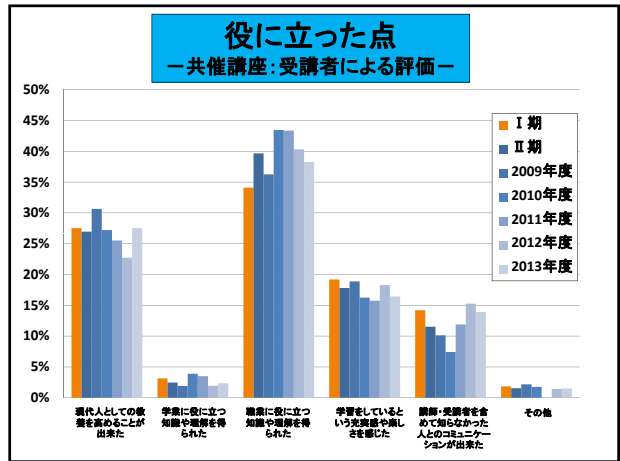
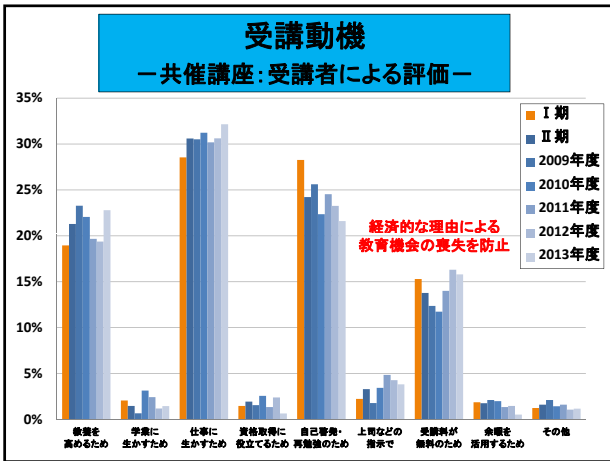
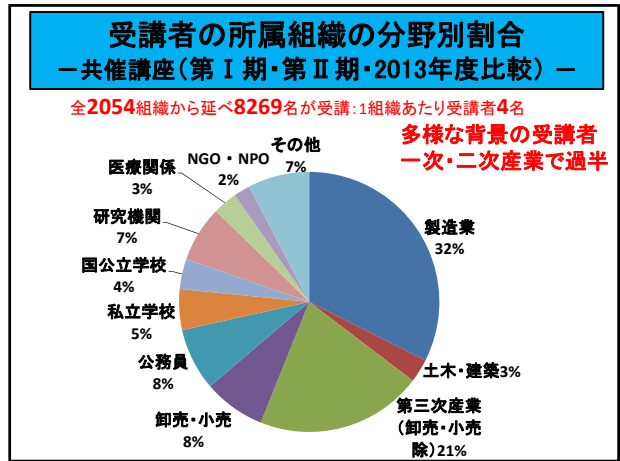
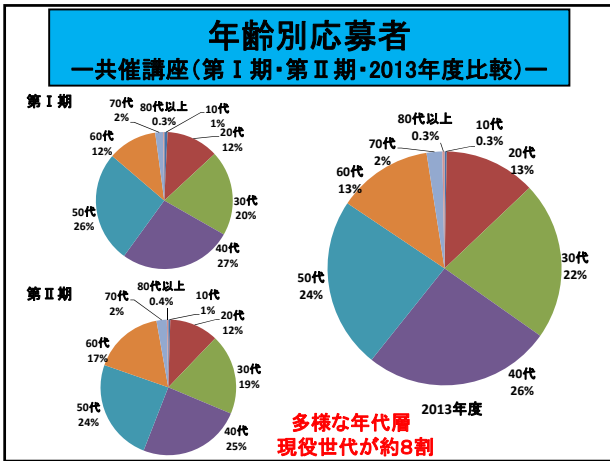
年度	第Ⅰ期 (2004-2008年度)	第Ⅱ期 (2009-2012年度)	第Ⅲ期 (2013-2015年度)
開講拠点	2	29	40
開講機関・連携機関	26	41	58
開講機関	2	30	40
連携機関	25	38	44
友の会会員	2857	3333	4874
協力機関	0	64	82

注1: 開講・連携機関の合計の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。  
注2: 第Ⅲ期の友の会会員、協力機関の値は、2013年度末の数値と2014年6月5日現在の数値の平均を示す。

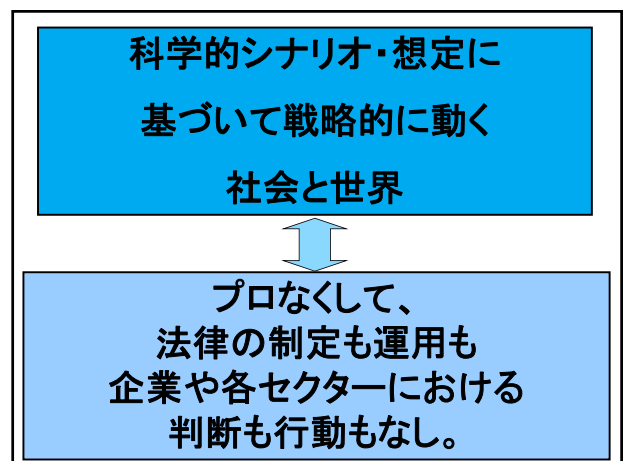
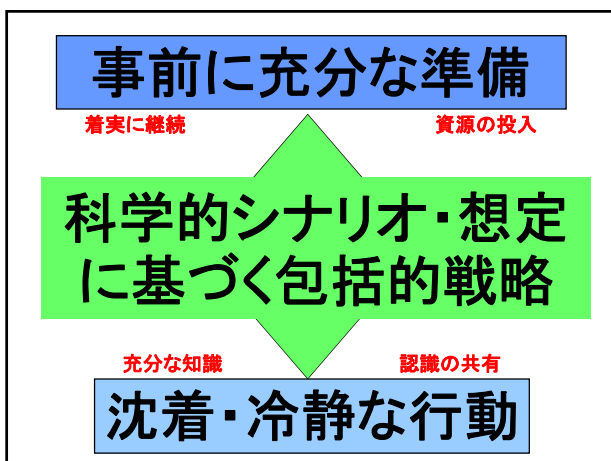
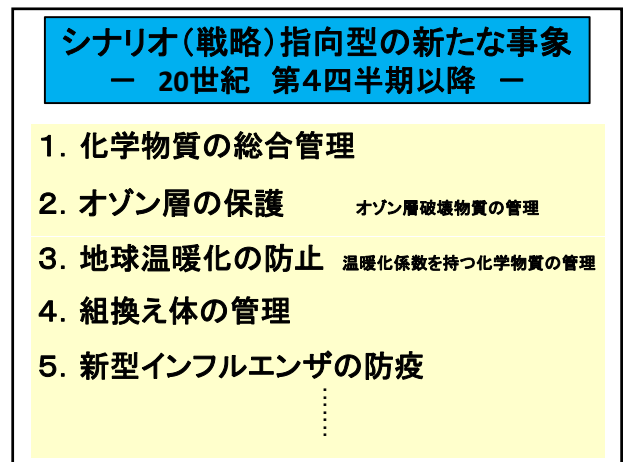
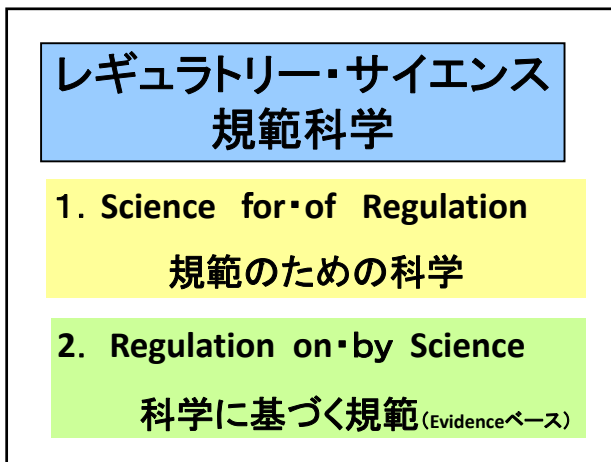
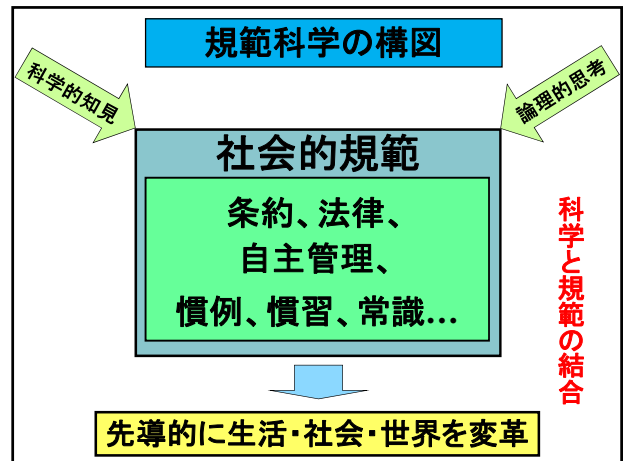
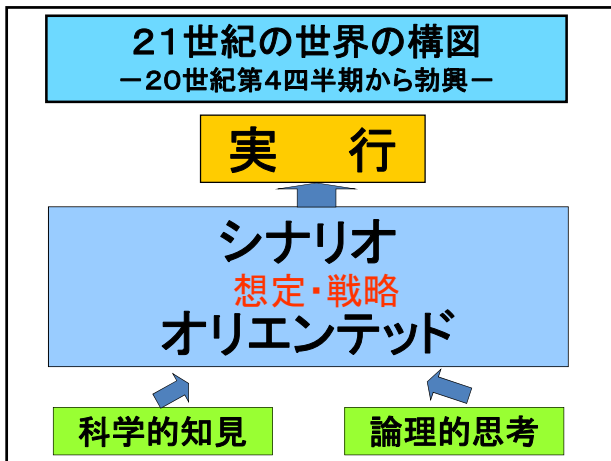


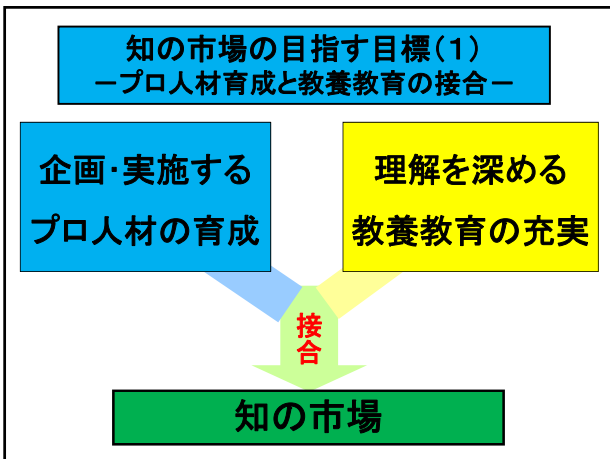
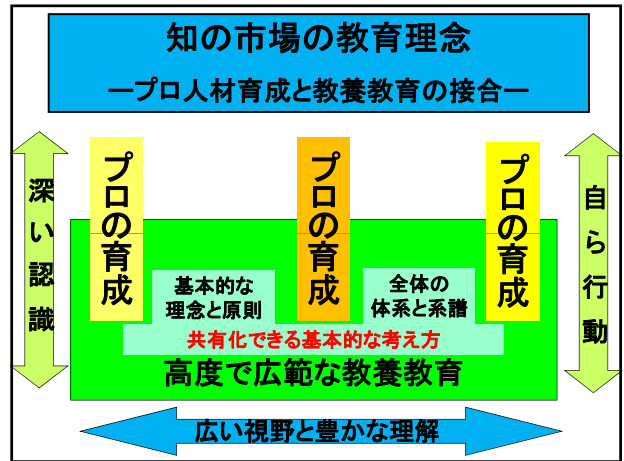
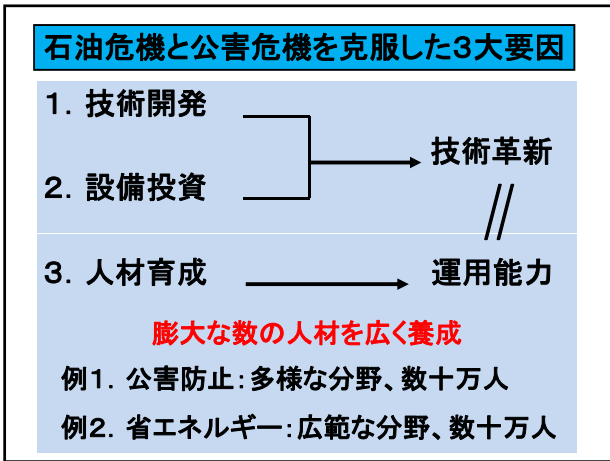
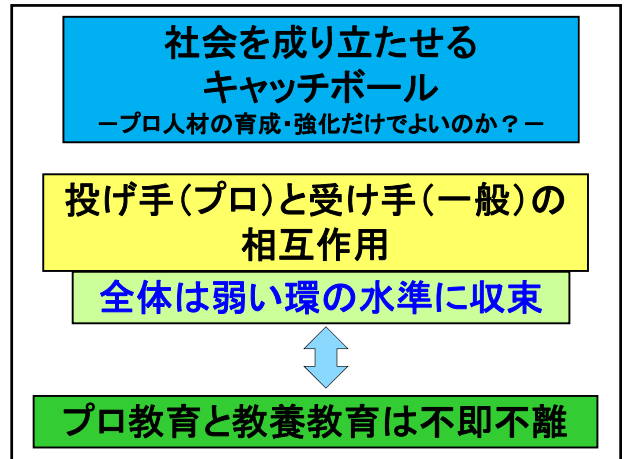
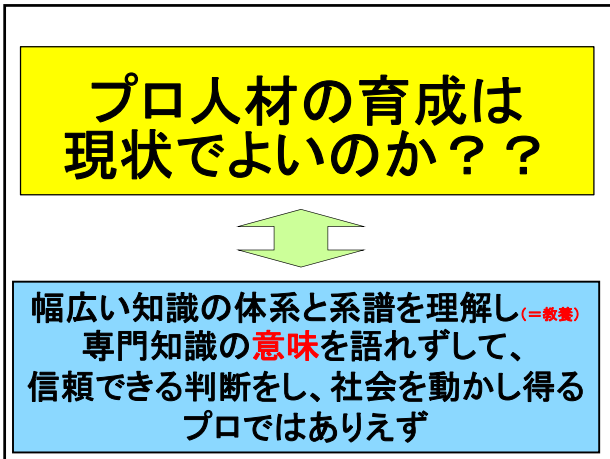
- ### 知の世界の拡大の系譜
- 好奇心指向型(キュアロシティ・ドリブン)
  - 欲求指向型(デザイア・ドリブン)  
20世紀初頭～
  - 戦略(構想)指向型(シナリオ・ドリブン)  
20世紀第4四半期～
- 知の爆発











### 知の市場の拠点 — 名古屋市立大学 — 2014年度

#### プロ人材の養成

#### 学びなおし支援センター

医師・看護師など国家資格保有者の再教育  
医療・保健:6科目(上級)  
学校教育法に基づく履修証明書の授与・受講修了証の授与

**プロ教育と教養教育の接合**

一般社会人に受講開放  
受講修了証の授与

大学院医学研究科  
健康科学オープンカレッジ(3講座)  
市民向け講座  
受講修了証の授与

#### 高度な教養教育

### 知の市場の拠点(例) — 名古屋市立大学 医療・保健学びなおし講座 — 2012年度

#### 受講者男女比

男性 29%  
女性 71%

(出典) [http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice\\_03.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice_03.html)

#### 受講者年齢

■受講生年代

### プロ人材育成と教養教育の接合の実例 — 名古屋市立大学 医療・保健学びなおし講座 —

国家資格を有する医師・看護師などととも学ぶ一般市民  
双方に有益かつ有効な自己研鑽の場の創造

#### 2008年度12月期

#### 2012年度

(出典) [http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice\\_03.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice_03.html) (2012年度)  
[http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice\\_03\\_08.html](http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/w3med/manabi/voice_03_08.html) (2008年度)

### 知の市場の目指す目標(2) — 社会人教育と学校教育の結合 —

大学・大学院  
における  
学校教育

社会の多様な場  
における  
多彩な社会人教育

↓ 結合 ↓

知の市場

### 社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

社会人教育の科目が同時に  
大学・大学院教育に活用されている事例 **合計5科目**

社会人教育としての科目	大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
規範科学事例研究1		
化学物質総合経営学事例研究1	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
法学入門		
安全学入門	安全学特論1	明治大学大学院 理工学研究科
製品機械安全特論	新領域創造特論3	新領域創造専攻

### 社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

社会人教育の内容や講師が  
大学・大学院教育に活用されている事例 **合計14科目**

大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
化学物質総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻
食農総合管理学	
生命科学概論A(健康・電子光学・経営・資源・社会工学)	
生命科学概論A(総合機械)	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
生命科学概論A(化学・応用化学)	
生命科学概論B(生命医科)	
社会技術革新学	お茶の水女子大学
規範科学	
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院
リスクコミュニケーション入門	
資源・エネルギー安全論	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻
社会技術革新論a	大分大学教育福祉科学部
化学物質総合管理学a	
日本力論b	鹿児島県立高等学校

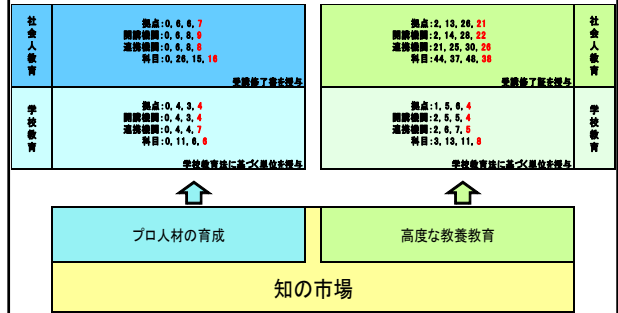
## 学校教育から社会人教育への展開(2014年度)

大学・大学院教育の科目が  
同時に  
社会人教育に活用されている事例 合計5科目

大学・大学院の教育としての科目	実施大学・大学院	社会人教育としての科目
社会技術革新学	東京・お茶の水女子大学	社会技術革新学基礎論
規範科学		規範科学基礎論
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院	サイエンスコミュニケーション実践論
リスクコミュニケーション入門		リスクコミュニケーション入門
資源・エネルギー・安全論	東京・東京工業大学大学院	資源・エネルギー・安全基礎論

## 知の市場の構造

一講座の位置 2015年度一



(注) 数字は左から順に第I期の平均値、第II期の平均値、第III期の平均値、2015年度の値を示す

## 知の市場の意義の拡大(1)

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。

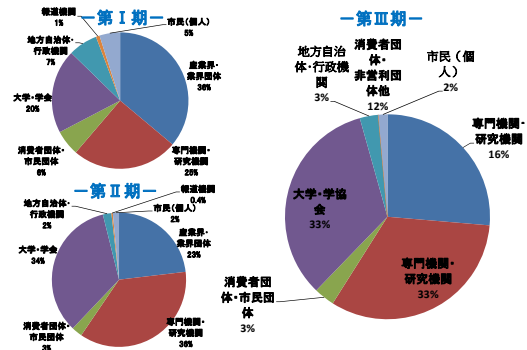


3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。

社会の多様性を反映する教育活動

## 講師の所属分布

一 共催・関連講座(第I期・第II期・第III期)一



## 知の市場の意義の拡大(2)

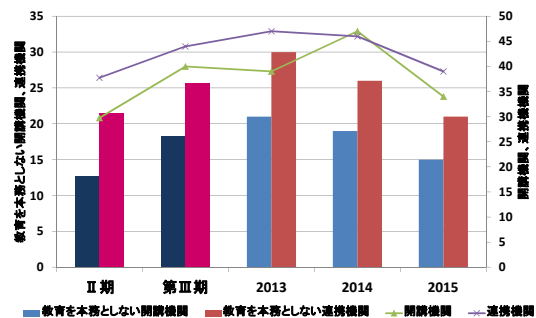
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。



4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。

社会の全員が参画する教育活動

## 教育を本務としない開講機関・連携機関の推移



注1: 第II期は2009-2012年度の4年間、第III期は2013-2015年度の3年間の平均値で示す。  
注2: 棒グラフはすべて左が教育を本務としない開講機関、右が教育を本務としない連携機関を示す。

### 知の市場の意義の拡大(3)

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい**幅広い分野の多様な人々**に、**講師**として現場を基点に**しつつ教育に参画**する機会を提供する。
4. 教育を**本来業務としない多岐にわたる個人や組織**、或いは、従来、**教育に無縁な個人や組織**が、**自発的に教育に参画し自主的に活動する**。

5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う**社会の現場の全てが教育の現場**としてもそれぞれ**多彩な輝きを放つ**

**真の教育立国**  
全国の全ての人々が自己研鑽と自己実現の機会を持つ教育活動

### 知の市場の地域別拠点 2014年度

・東京 お茶の水女子大学(iwoc)/学部、茗荷谷、西早稲田(1)労研、西早稲田(2)主婦連、幡ヶ谷、早稲田大学理工学部/医歯先進健康科学専攻、早稲田駅、戸山、日本橋室町、丸の内、九段、大岡山、関西大学東京センター、四ツ谷(1)主婦連、四ツ谷(2)生物研、八重洲、明治大学理工学研究科、放送大学文京学習センター、日本中央競馬会、筑波大学東京キャンパス、大学大学院、東京工業大学理工学研究科	24拠点
・埼玉 狭山、狭山元氣プラザ	2拠点
・神奈川 川崎官前区	2拠点
・千葉 千葉	1拠点
・福島 いわき	1拠点
・愛知 名古屋市立大学(1)最新医学、名古屋市立大学(2)学びなおし	2拠点
・京都 京都大学	1拠点
・大阪 千里山、関西大学高槻	2拠点
・鳥取 倉吉	1拠点
・大分 大分大学	1拠点
・鹿児島 鹿児島、枕崎	2拠点

### 知の市場の意義の拡大(4)

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい**幅広い分野の多様な人々**に、**講師**として現場を**基点にしつつ教育に参画**する機会を提供する。
4. 教育を**本来業務としない多岐にわたる個人や組織**、或いは、従来、**教育に無縁な個人や組織**が、**自発的に教育に参画し自主的に活動する**。
5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う**社会の現場の全てが教育の現場**としてもそれぞれ**多彩な輝きを放つ**。

6. 自由な意思を持った人々の**自発的で主体的な参画**により、**自立的かつ自律的な活動を永続的に展開**

**「真の教育立国」の新展開**

### 有志学生実行委員会

合計29名

講師・連携機関・開講機関・協力機関のボランティア活動に続く新たな動き

お茶の水女子大学	岩崎紀子 別府南月子
東京大学	藤智由紀子 川内典雄
顧問	橋村直樹 齊藤節
	藤村直樹 野口美子
	飯塚忠生 松崎みちる
	三上麻由子
	金原隆 吉原有直
	飯塚久典子
	非松幸特 (特別)
	荒井優紀子 (特別)
	新井麻子
	黒野しのぶ
	藤原史 (特別)
	岡田史 (特別)
	奥田有香
	神田尚俊
	北村祥
	武田雅夫 (千葉)
	樋口敬一
	藤田千重
	山崎豊
	池田麻子 (川崎)
	藤沼和子 (米国/バージニア)

15名  
都内 8名  
都外 6名  
海外 1名  
男性 8名  
女性 7名

2014年12月5日

### 自己点検・外部評価

#### I. 自己点検評価

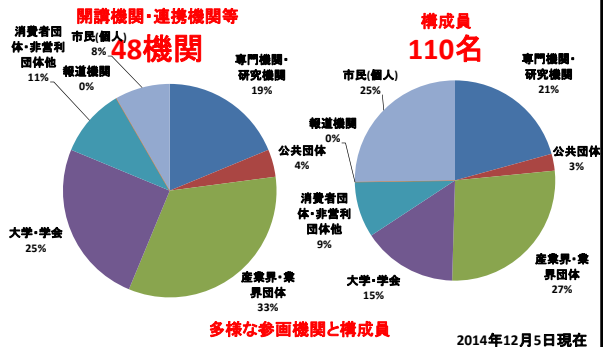
1. 協議会による評価
2. 受講者や講師による評価
  - ①講師による科目評価
  - ②受講者による講義評価
  - ③受講者による科目評価

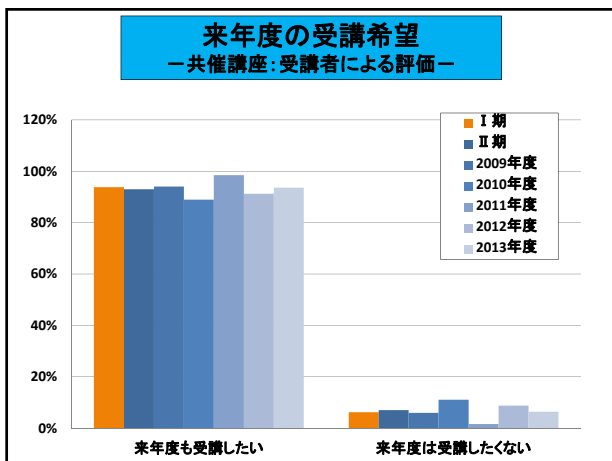
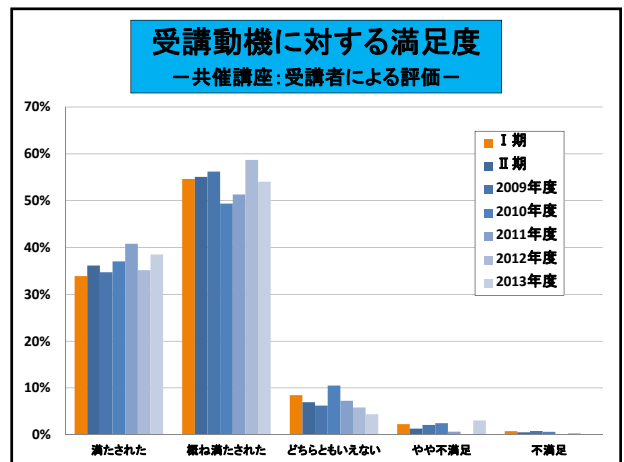
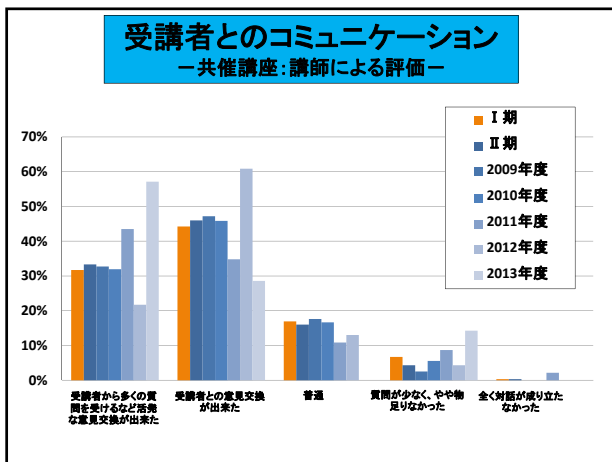
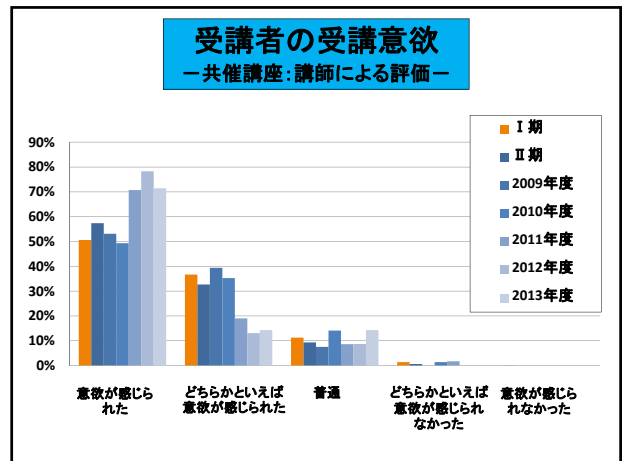
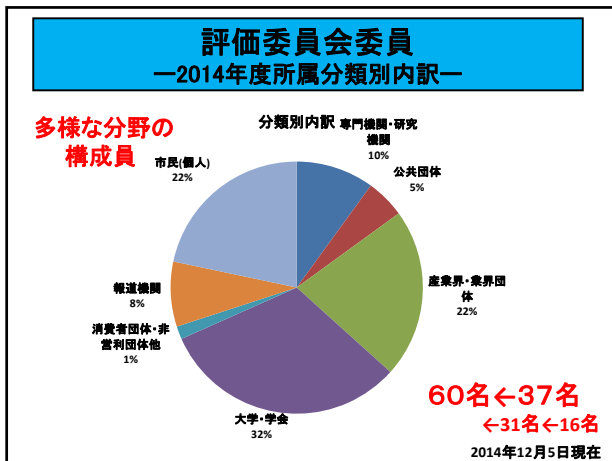
#### II. 外部評価

1. 評価委員会による評価
2. 年次大会・奨励賞

### 知の市場協議会

—2014年度所属分類別内訳—





- ### 年次大会の目的と構成
1. 目的
    - 1) 年次大会は、知の市場の運営に携わる関係者が当年度の活動の実績や次年度の開講科目計画などを広く社会に対して公開して検証を受ける場を提供する。
    - 2) 関係者が密接なコミュニケーションを行い認識の共有化を促進する場を提供する。  
**公開による外部評価  
認識の共有化**
  2. 構成
    - 1) 開講機関及び連携機関の活動の計画及び実績の報告
    - 2) 奨励賞の授与及び記念講演
    - 3) 特別講演
    - 4) 知の市場の活動報告



## 奨励賞の授与

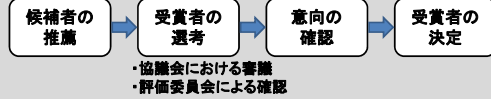
### 1. 目的

知の市場における自己研鑽とその成果を活用する活動及び人材育成や教養教育の発展と知の市場の発展に資する活動を奨励する

### 2. 対象

受講者、講師、開講機関、連携機関、その他

### 3. 選考



・協賛会における審議  
・評価委員会による確認

奨励賞授与

## 奨励賞の授与

—実績—

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講/ 連携機関	連携機関のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014	0	0	1	0	0
合計	1	1	11	6	1

(2014年12月5日現在)

## 受講者の多い組織上位10傑

—共催講座 第I期・第II期・2013年度—

全2054組織から延べ8269名が受講:1組織あたり受講者4名

順位	所属名称	延べ人数	順位	所属名称	延べ人数
1	お茶の水女子大学	200	6	早稲田大学	66
2	花王	114	7	ADEKA(旭電化工業)	63
3	ライオン	90	8	動物臨床医学研究所	61
4	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	75	9	出光興産	59
4	旭硝子(AGC)	75	9	住友ベークライト	59

## 知の市場の今後の展開

1. 恒常的な教育内容の向上
2. 全国の津々浦々の現場が参画



社会の現場を基点にした  
自立的にして自律的な  
自己研鑽と自己実現の基盤の構築

## 知の市場の今後の課題(1)

### 1. 分野の拡大と連携機関の拡充

- 1) 現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会の提供
- 2) 多様な連携機関の参画を拡大し、多彩な講師による多岐にわたる科目の開講

### 2. 拠点の全国展開と開催機関の拡充

- 1) 自己研鑽の機会の日常化と普遍化を促進
- 2) 多様な開講機関の参画を拡大し、開講拠点の多彩化と全国化を促進

## 知の市場の今後の課題(2)

### 3. 参画機関の機能の強化

#### (1) 全機関

- 1) 参画機関の垣根を越えた協働・協力関係の構築
- 2) 活動基盤の強化と自立的な活動の拡充

#### (2) 教育機関(大学・大学院)の課題

- 1) 大学・大学院の履修科目とし単位取得の対象として活用
- 2) 大学・大学院の科目を社会人に開放するなど活用

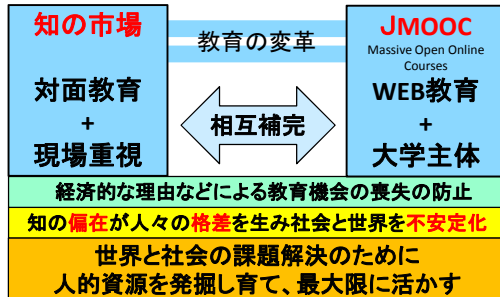
### 4. 内外の教育を巡る新たな動きとの連携

JMOOC・放送大学 他

### 5. 基盤の強化

- 1) 多彩な人々が自立的かつ主体的に参画する基盤を確立
- 2) 自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

## オープン・エデュケーション —意義と特徴—



## 知の市場の展開

第0期:黎明期(～2003年度)

第I期:形成期(2004年度～2008年度)

第II期:展開期(2009年度～2012年度)

第III期:基盤完成期(2013年度～2015年度)

自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築

第IV期:自立発展期(2016年度～ )

完全にボランティア活動で運営する教育活動